

# 学校の在り方地区検討委員会（上北地区） 【第3回】



令和8年4月  
青森県教育委員会

# 本日の流れ

## 1 事務局説明

- (1) 今後のスケジュール（見込み）
- (2) 第2回の主な意見
- (3) 第2回の意見に基づく資料
- (4) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）
- (5) 青森県立高等学校魅力づくり推進計画全体ビジョン及びビジョンを踏まえた前期実施計画の方向性

## 2 意見交換

- (1) 単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性
- (2) 全日制課程の学校規模・配置
- (3) 定時制課程・通信制課程の学校配置



# I 事務局説明

# (1) 今後のスケジュール（見込み）

月	内容
4	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>第3回学校の在り方地区検討委員会（本日）</u> [学校配置等について]</li><li>・学校配置に関する県民への意見募集（4月17日～4月30日）</li></ul>
5	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>第4回学校の在り方地区検討委員会（中旬）</u> [報告書（案）について]</li><li>・県教育委員会に<u>学校の在り方地区検討委員会の報告書を提出（下旬）</u></li></ul>
6	教育委員会会議での審議を経て、前期実施計画（案）を作成 作成後、パブリック・コメント、地区懇談会及び <u>第5回学校の在り方地区検討委員会</u> を開催
7	
8	
9	
10	
11	前期実施計画策定・公表

(2) 第2回の主な意見  
参考資料1を参照

(3) 第2回の意見に基づく資料  
参考資料2を参照

(4) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）  
参考資料3を参照

(5) 青森県立高等学校魅力づくり推進計画全体ビジョン及びビジョンを踏まえた前期実施計画の方向性



# Ⅰ 青森県立高等学校魅力づくり推進計画 全体ビジョン

---

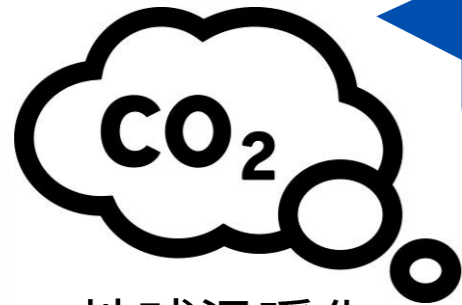


## ① 背景

# 今のこども、これからのこどもが生きる社会が抱える課題（社会全体の視点）

## 現在の未解決の課題

最適解の  
探究



地球温暖化



エネルギー



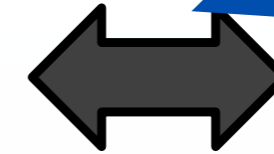
各産業の担い手不足

+

## 将来予測される課題

将来を見据えた  
生き方・在り方の  
考察

学びを通して  
身に付けた  
スキル



労働需給  
ギャップ

自己実現や社会  
で活躍するため  
に必要なスキル

● ● ●

## Society5.0時代以降の未知の課題



スキルの  
ため  
アップデート

# 今のこども、これからのこどもが生きる社会が抱える課題（本県の視点）

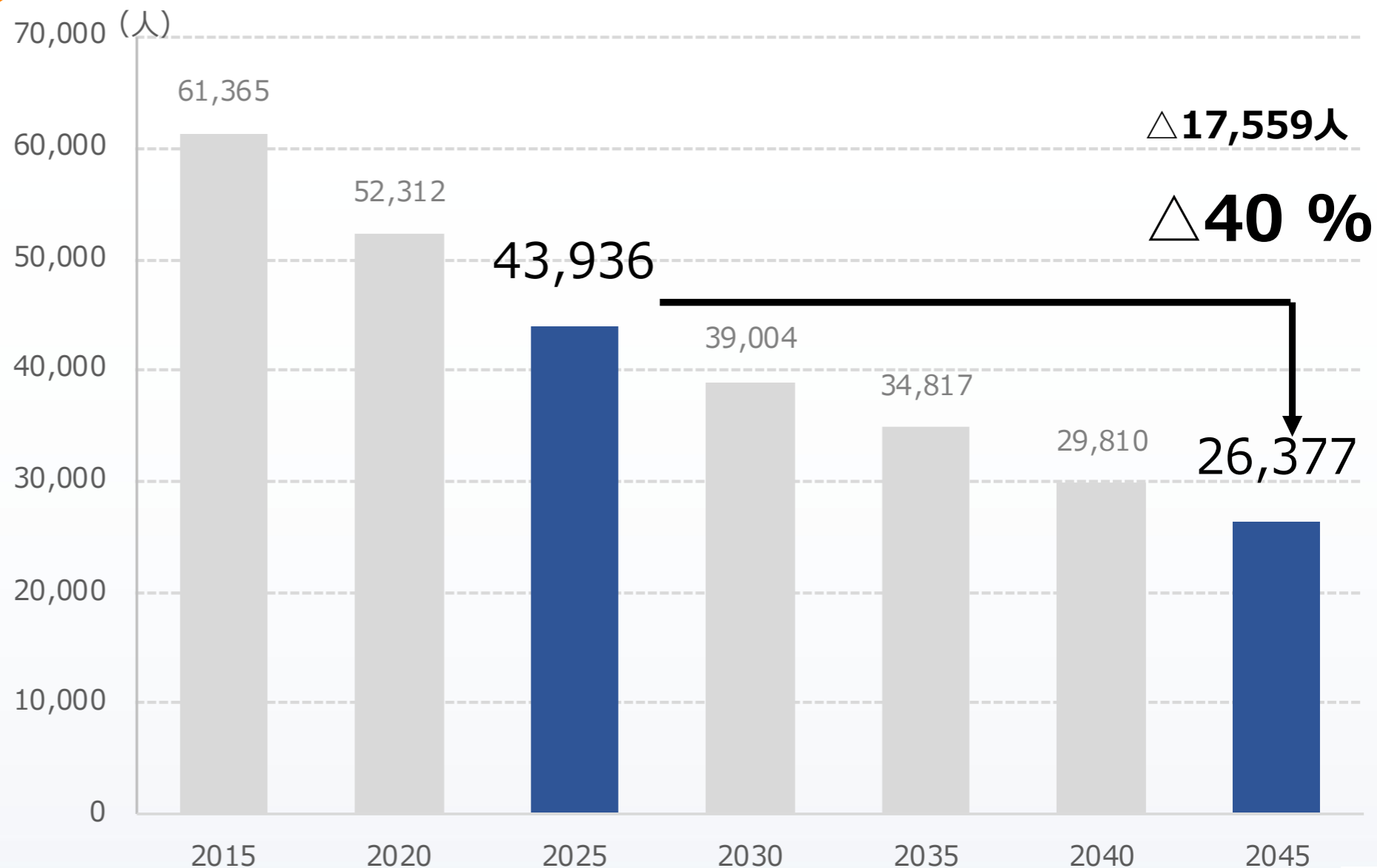
## 立ち向かうべき課題

- 低水準にある所得状況
- 長期的な人口減少
- **若者の減少**、超高齢社会
- 物価高騰
- 気候変動や自然災害

特に、青森新時代に向けて

**所得向上**

### 青森県の将来推計人口（15～19歳人口）



2040年のめざす姿

# 若者が、未来を自由に描き、 実現できる社会

人口減少の大きな要因は、若い世代の県外流出とこれに伴う少子化。人口減少に伴う課題を乗り越え、美しい自然や文化を背景とした豊かな暮らしなど、本県の有する価値を次の世代につないでいくためには、一人でも多くの若者が青森県で人生を送ることに多様な可能性を見出し、「ここで暮らしたい」と思える魅力ある青森県にしていくことが重要です。

# 本県の目指す姿の実現に向けた政策（方針）

## 政策テーマ1 しごと ~所得向上と経済成長~

将来を拓く鍵

- 所得増につながる生産性の向上

### 政策Ⅰ 豊かさを実感できる力強い農林水産業の実現

- 施策1 所得向上につながる販売戦略の展開
- 施策2 新たな時代に適応した優れた畜産品・産品づくり
- 施策3 農林水産業の持続的な発展を支える人材育成

### 政策Ⅱ 地域経済の成長を支える県内産業の競争力強化

- 施策1 県内企業の販売力・収益力強化と経費コストの削減
- 施策2 地域の未来につながる産業の創出・継承
- 施策3 持続的・安定的な労働力の確保

### 政策Ⅲ 若者を惹きつけるしごとづくり

- 施策1 若者を始め地域経済の未来を担う人材の選抜と県内定着の促進
- 施策2 チャレンジングな創業・起業の促進
- 施策3 成長分野や本県の強みを促した企業誘致の推進

### 政策Ⅳ 産業を支えるDXの推進

- 施策1 産業分野のDX推進
- 施策2 スマート農林水産業の推進

## 政策テーマ2 健康 ~健康を支える医療環境の向上と共生社会の実現~

将来を拓く鍵

- ヘルスリテラシーの向上 ●医療・介護サービス提供体制の強化

### 政策Ⅰ 県民一人ひとりの健康づくりの推進

- 施策1 ヘルスリテラシーの向上による生活習慣の改善
- 施策2 こころを支え、命を守る社会づくり

### 政策Ⅱ がんの克服をめざす体制づくり

- 施策1 科学的根拠に基づいたがん対策の充実
- 施策2 がん治療体制の充実と、がんと共に生きることを支える仕組みの強化

### 政策Ⅲ 持続可能な地域医療サービスの整備

- 施策1 医療の担い手育成と確保
- 施策2 次世代へつなげる医療連携体制の強化

### 政策Ⅳ 高齢者や障がい者が安心して暮らす共生社会の実現

- 施策1 高齢者が生きがいをもち、安心して暮らせる環境づくり
- 施策2 障がい者等の活躍促進

## 政策テーマ3 こども ~こどもの健やかな成長~

将来を拓く鍵

- 少子化への挑戦 ●教育改革の推進

### 政策Ⅰ 希望と喜びを持って子育てできる環境づくり

- 施策1 安心してこどもを育てられる環境づくり
- 施策2 社会全体で子育てする環境づくり

### 政策Ⅱ あおもりの未来をつくるこどもたちのための学校教育改革

- 施策1 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成
- 施策2 グローバル社会への対応と主体的に社会に参画する学びの推進
- 施策3 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進
- 施策4 多様な教育的ニーズへの対応
- 施策5 こどもの学びを支える教育環境の整備ときめ細かな指導の充実に向けた人材の確保・育成
- 施策6 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

### 政策Ⅲ こども・若者に届く包括的な支援の充実・強化

- 施策1 様々な環境にあるこどもや家庭への支援
- 施策2 こども・若者の社会的・職業的自立に向けた支援

## 政策テーマ4 環境 ~自然環境との調和とその活用~

将来を拓く鍵

- 再生可能エネルギーの推進と自然・地域との共生

### 政策Ⅰ 再生可能エネルギーとの共生と環境配慮型ビジネスの推進

- 施策1 自然・地域と共生する再生可能エネルギーの活用促進
- 施策2 エネルギー関連産業クラスターによる経済循環の形成
- 施策3 リサイクル、メンテナンス関連産業の集積促進
- 施策4 地域内のGXを支える基盤づくり

### 政策Ⅱ カーボンニュートラルに向けた脱炭素社会の実現

- 施策1 温室効果ガスの排出抑制対策の推進
- 施策2 吸収源対策の推進

### 政策Ⅲ 資源効率の高い循環型社会の実現

- 施策1 限りある資源を有効活用する3R+の推進
- 施策2 廃棄物の適正処理と環境保全対策の推進

### 政策Ⅳ 豊かな自然環境の継承

- 施策1 世界自然遺産白神山や貴重な自然の保全と活用
- 施策2 自然と共生する豊地豊山の保全と活用
- 施策3 生活を支える健全な水循環の確保

### 政策Ⅴ 原子力施設の安全確保対策と原子力防災対策の充実

- 施策1 安全確保対策と防災対策の充実
- 施策2 安全確保対策と防災対策に係る理解の促進

## 政策テーマ5 交流 ~国内外とつながる交流・物流の拡大~

将来を拓く鍵

- 観光消費額の拡大 ●海外戦略の強化

### 政策Ⅰ 国内外とつながる観光の推進

- 施策1 観光の付加価値創出・向上
- 施策2 多様な来訪者が快適に滞在できる環境づくり
- 施策3 観光DXの推進と持続可能な観光関連産業の確立
- 施策4 観光ファンを増やす情報発信
- 施策5 国内外からの観光の強化

### 政策Ⅱ 輸出・海外ビジネスの拡大と物流の確保

- 施策1 海外ニーズを促した輸出戦略の展開
- 施策2 グローバルな経済連携の強化
- 施策3 産業と暮らしを支える物流の最適化

### 政策Ⅲ 国際交流の推進

- 施策1 海外との友好交流の推進
- 施策2 多文化共生社会の実現

### 政策Ⅳ 暮らしと交流を支える交通ネットワークづくり

- 施策1 地域公共交通ネットワークの確保・維持
- 施策2 地域公共交通の利便性向上・最適化
- 施策3 国内外につながる交通ネットワークの強化

## 政策テーマ6 地域社会 ~持続可能な地域社会の形成~

将来を拓く鍵

- 地域との多様なつながりの構築 ●行政経営分野のDX推進

### 政策Ⅰ 元気な地域づくり・人づくり

- 施策1 地域の強みを生かした地域づくり・人づくり
- 施策2 持続可能な農山漁村地域の実現
- 施策3 移住促進と関係人口の拡大
- 施策4 女性の人財育成とエンパワーメント
- 施策5 人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進
- 施策6 多様性を尊重する環境の整備

### 政策Ⅱ 安心で快適な生活基盤づくり

- 施策1 DXなどによる生活環境の整備と強化
- 施策2 防犯と犯罪対策の強化
- 施策3 交通安全対策の強化
- 施策4 消費生活と「食」の安全・安心を守る体制づくり
- 施策5 生活困窮による様々な問題を解決する仕組みづくり

### 政策Ⅲ 文化・スポーツの振興

- 施策1 歴史・文化の価値や魅力に対する理解と活用の促進
- 施策2 楽しく体を動かしスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

## 政策テーマ7 社会資本 ~安全で利便性の高いインフラの整備~

将来を拓く鍵

- DXを活用した、インフラ整備と防災・減災の推進

### 政策Ⅰ 安全・安心な県土づくりを推進する社会基盤の整備

- 施策1 「防災・減災、国土強靱化」の推進
- 施策2 安全・安心を確保するインフラ機能の充実・強化

### 政策Ⅱ 産業・交流を支える社会基盤の整備

- 施策1 産業、交流を支える主要幹線道路ネットワークの整備
- 施策2 国内外との物流、観光を支える港湾・空港機能の強化
- 施策3 快適に暮らせるまちづくりの推進

### 政策Ⅲ 防災・減災の推進や危機管理機能の向上

- 施策1 防災分野のDX推進
- 施策2 防災対策の強化

大変申し訳ありませんが、見にくい場合はお手元の資料をご覧ください。

## 上北地区の方針（参考：「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」）

### 【強み】


- ・我が国有数のエネルギー関連施設、研究開発機能や核融合等の世界最先端の技術の集積地、さらに、近隣に広大な土地を有する環境
- ・三沢基地等、多様な文化の交流地
- ・農業産出額が県内で最も高い
- ・にんにく等の高付加価値化が見込める農作物
- ・建築業が盛ん
- ・十和田湖や奥入瀬溪流等、豊富な観光資源

### 【課題】

- ・農業の担い手をいかに確保・育成するか
- ・スマート農業導入により生産性をいかに向上させるか
- ・高付加価値化により収益性をいかに向上させるか
- ・地域コミュニティ活動をいかに活性化させるか
- ・観光における季節による繁閑の差をいかに改善するか
- ・公共交通機関の利便性をいかに向上させるか

### 【2040年の目指す姿の実現に向けた取組方針（キーワード）】


- ・農林水産業を持続的に発展
- ・スマート農業の推進
- ・付加価値の高い特産品の開発
- ・販路開拓
- ・地域コミュニティの活性化
- ・デジタル技術を活用したマーケティングの充実
- ・冬季観光の拡充
- ・保健・医療・福祉等の連携体制の充実
- ・地域内の多様な人財の発掘・育成
- ・移住・定住・還流の推進




## ② 高校教育の方向性

## 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～


視点1 不確実な時代を自立して生きていく  
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

-  学びの在り方の転換  
(New Transformation)
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
  - ✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表
  - ✓ 高校教育と一貫した大学教育改革（主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等）

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

-  最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化  
(New Excellence)
- ✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
  - ➔ 理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感
  - ✓ 各高校の特色化・魅力化
  - ➔ 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成
  - ➔ 「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

-  学ぶ機会・アクセスの確保  
(New Education)
- ✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す  
(地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進)
  - ✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
  - ✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。  
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

### 上記の3つの視点に基づいた改革先導校の設定（基金）

国内外で  
リーダーとして  
活躍する人財

本県や地域の  
発展・成長を  
牽引する人財

産業の発展に向  
けて主体的に取  
り組む人財

共通するキーワード

- 🚩 イノベーター、探究、連携・協働
- 🚩 DX、AI、IT、デジタル技術、データ活用
- 🚩 ロボット、省力化
- 🚩 高付加価値化、生産性向上
- 🚩 地域・郷土、グローバル

## Society5.0時代に向けた生きる力

学んだことを人生や  
社会に生かそうとする

学びに向かう力、  
人間性など



実際の社会や  
生活で生きて働く

知識及び技能

未知の状況にも  
対応できる

思考力、判断力、  
表現力など

### 特に必要となること

- 自己の個性を生かす力
- 好奇心をもって学び続ける主体性
- 創造性や柔軟性
- コミュニケーション能力
- 多様性を尊重する心
- 地域・県・世界など、社会に対する誇りと愛着

生きる力を支える心

- ✦ グローバルな視野と郷土を愛する心
- ✦ 自己や社会を変革させるチャレンジングマインド

# 育みたい資質・能力を踏まえて県立高校の役割（ミッション）は？

〈青森県教育施策の大綱における「目指す教育」より〉

## 「こどもまんなか青森」～未来を担うこどもたちのために～

本県で生まれ育った全てのこどもたちのウェルビーイング向上のため、こどもをまん  
なかに据えた教育の実現を目指して、県民が一体となって取組を進めます。

### 県立高校としてのミッション

〈最大のミッション〉

こどもたちが、未来を切り拓き、豊かな人生を送る（自己実現を図る）こと  
＋  
持続可能な社会の創り手となること

このミッションを果たすために

- こどもたちの「学びたい」「行きたい」をつくり、それに応える
- こどもたち一人一人に新たな時代に向けた生きる力を育む  
(高校教育を受ける機会の確保、充実した教育環境の整備、柔軟な学び方を広く提供)
- 自らが所属する地域や県、世界など、社会への誇りと愛着を醸成する

# ミッション（使命）を踏まえた目指す学校像（ステートメント）は？

## ◆目指す学校像（ステートメント）

本県の県立高校は、

生徒一人一人が**自分の未来に、光を灯せる学校**

となることを目指します。

## ◆高校生活を通じて生徒が**自分の未来に、光を灯す** 3 STEPS

- ① こどもたちの「行きたい」「学びたい」学校がそこにあります
- ② こどもたちは、そこで成長の手応えをつかみます
- ③ やがて、こどもたちは、勇気をもって自分の未来を描くようになります

## ◆2040年へのプロセス

未来に希望を持った若者にあふれ、



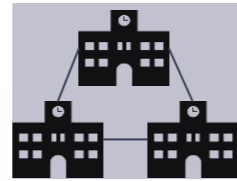
2040年のめざす姿

**若者が、未来を自由に描き、  
実現できる社会** となる。

# 県立高校 の強みは？



設置者が県であること  
目標を共有できる  
安心・安全な環境を提供できる



様々な特色を持った学校があること  
県内約50校の学校を設置



様々な専門性を有した教員がいること  
県内約2千人の教員が在籍



産業教育が充実していること  
県立にしかない学科が多数



母校愛を持った人材が多いこと  
協力者、支援者が多数

# 目指す学校像の実現に向けた取組の方向性（特色化・魅力化の推進）

## 方向性1

本県の実情・方向性に応じて、国の基金等を最大限活用しながら先進的取組を創出

他校との共有等による県全体への波及と各校の特色との融合

## 方向性2

地域や産業界等との連携・協働により、本県のリソースを最大限活用しながら学校内にとどまらない本県ならではの取組を創出

地理的条件、学科によらず、本県のリソースを生かした学びを展開

## 方向性3

生徒の多様な学習ニーズに応える、外部人材等を活用したきめ細かな指導・支援

各校の生徒の実情に合わせて県全体で実施

【共通するテーマ】

共有・連携・協働、そして全校を特色化・魅力化

# 目指す学校像や県全体の特色化・魅力化を推進する学校配置の方向性

## 【基本方針】

- 「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を踏まえ、
- 地区ごとに、将来の中学校卒業予定者数、中学生のニーズ、地域の産業構造、通学環境、国の高等学校教育改革の動向等を考慮しながら、
- 様々な役割を担う高校を2040年の青森県の姿を見据えながら計画的に配置



## 【具体例】

- 🏠 地域等と一体となって学校の活性化に取り組む「地域共育校」の配置
- 🏠 就職から進学まで幅広い進路志望に対応する学校や多様な目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する学校の配置
- 🏠 県全体の教育活動の質の向上に資する先進的な取組を推進する学校
- 🏠 社会の要請や地域の産業構造等を考慮した学科の設置



③ 方向性を踏まえた新たな学校や構想

## 新設1

### 生徒の チャレンジを 生む学校

#### 【デジタルに関する学科】

- ・ 地理的条件や学歴に捉われないスタートアップを生み出す学び
- ・ 少資本でもイノベーションを起こすための学び
- ・ チャレンジを形にするための起業家精神の醸成

## 新設2

### 生徒が 社会の創造に 参画する学校

#### 【地域に関する学科】

- ・ 生徒と創る地域の学び
- ・ 地域から提供される側から提供する側となることで、地域の魅力を知り、誇りや愛着を醸成

## 新設3

### 生徒が 学びを つくる学校

#### 【探究に関する学科】

- ・ 時代に合わせてアップデートできるコース設定
- ・ 生徒が興味関心に合わせて学ぶ
- ・ つながりを創る施設

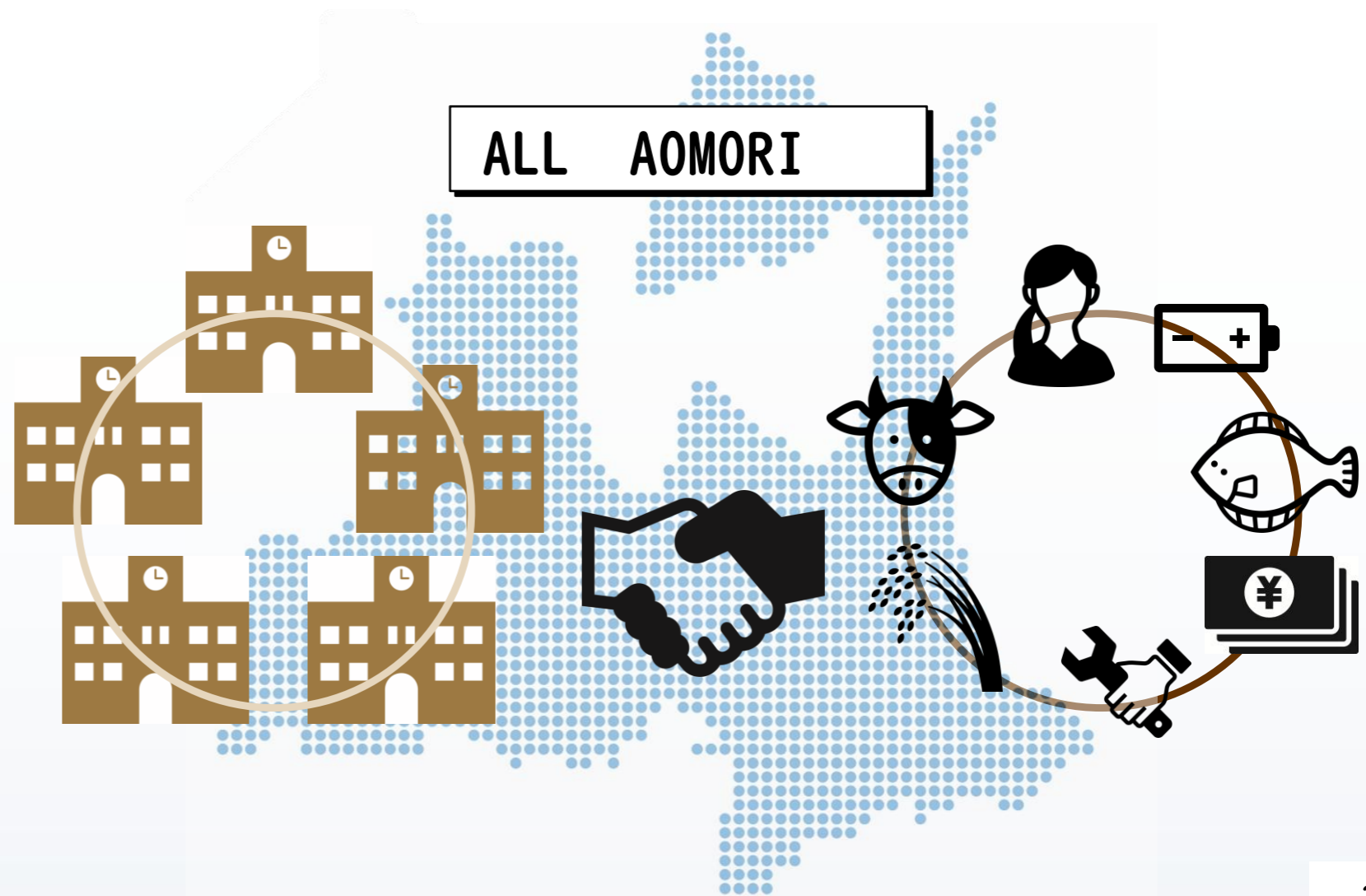
# TEAM県立で目標を 共有し、高め合い、 生徒一人一人を支える

- ・リソースの共有と融合
- ・きめ細かなセーフティーネット
- ・単位制を生かした生徒の多様な学び



# 多様なリソースへの アクセスを可能にする ことにより、生徒に多 様な魅力を伝えつつ、 学びを深める

県内すべての生徒・教員が企業や  
専門性を持った人材などの様々な  
リソースから、ニーズに応じて選  
択できる学びのプラットフォーム  
を構築



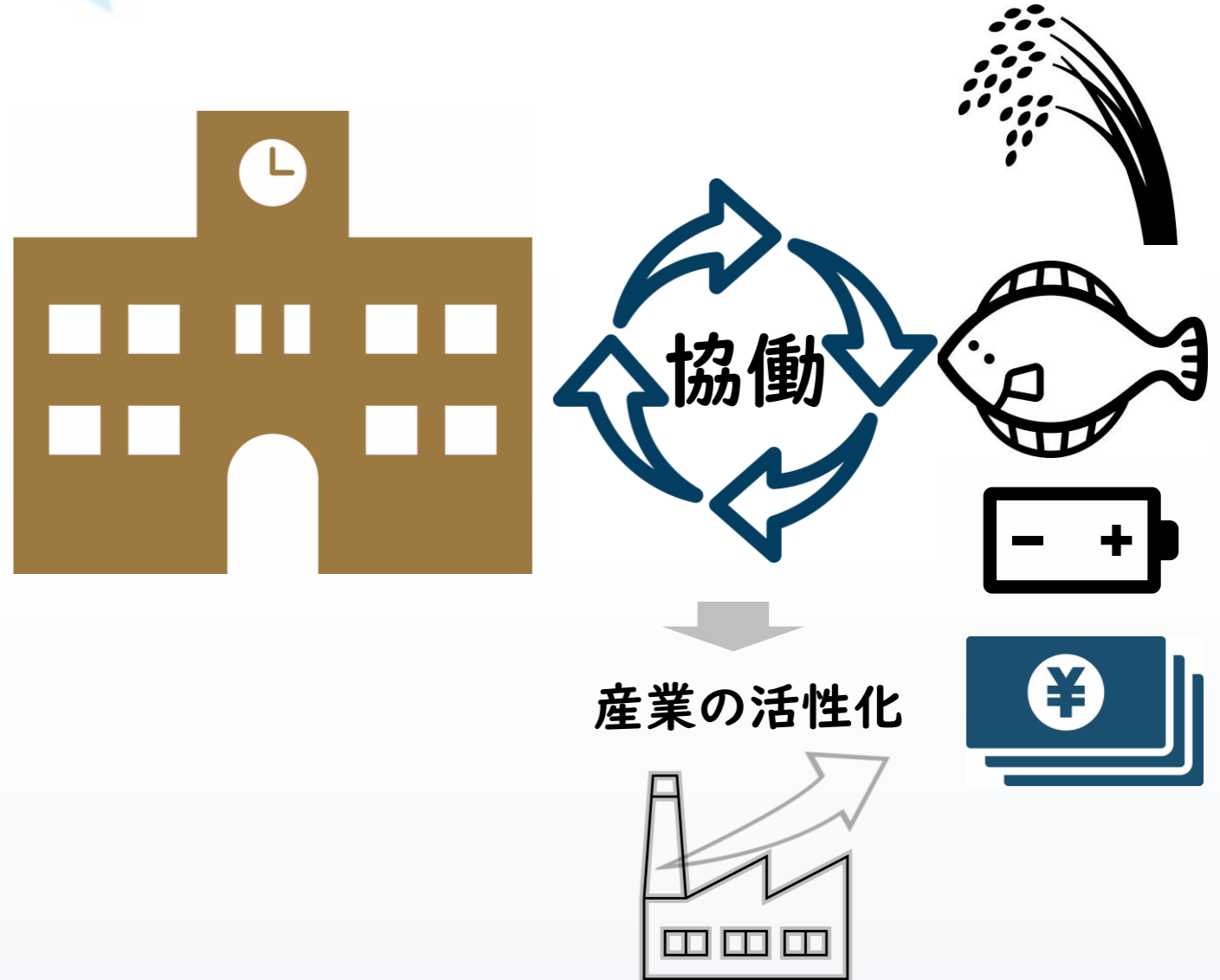
# 生徒のチャレンジと 活躍の場の創出により、 産業の活性化を図りつつ、 自己有用感を高める


職業学科を中心とした「リアル」※への  
マッチングと支援で、現在の産業を「守  
る」だけではなく「創る」へ

※「リアル」とは？

⇒体験や手伝いにとどまらず、実際に事  
業を立ち上げ、一部運営するなど、生徒  
が地域や企業から提供される側から提供  
する側となる取組。

例) 金融機関等と連携し、伴走支援や融資を受け、生  
徒のチャレンジと活躍を支える






**補足：大胆な特色化・魅力化に取り組むメリット**

## 次期学習指導要領の動き

2026 (R8)	2027	2028 (R10)	2029	2030	2031	2032 (R14)
中教審 答申	公表・周知					本格 実施
各校が柔軟な教育課程を 編成することが可能となる 方向性。	新たな教育課程の検討期間				教育課程の 決定	実施
前期 公表	この期間のパイロットケースが、 県全体への波及効果を生み出し、最大化する					
第2期実施計画	前期実施計画					



## 2 前期実施計画（Ⅰを踏まえた具体的な方策）の方向性

---



① 単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性

# 単位制や少人数学級編制の方向性

## 【検討委員会における主な意見】

### ○単位制の拡充

- ・ 学びを途切れさせないための単位制を活用した新しい学びの場も必要。
- ・ 単位制は学びの多様性が広がる良い教育制度だと思うので進めてほしい。
- ・ 普通科等でも単位制を拡充した方がよい。

### ○少人数学級編制の拡充

- ・ こどもを真ん中に置いて考えると、少人数学級編制の拡充により、多様な学びの場を確保すべき。
- ・ 生徒一人一人にきめ細かな指導を行うため、少人数学級編制を導入することも考えられる。
- ・ 少人数学級編制については、学級数を減らしたくないという感情論で議論を進めるのではなく、予算面も踏まえて検討を進めることが望ましい。

## 単位制

■ 普通教育を主とする学科（以下「普通科」という。）の一部と総合学科は導入済

■ 残りの普通科を有する高校への導入を検討

## 少人数学級編制

■ 農業科、工業科、水産科は導入済

■ 商業科及び家庭科への導入を検討

県全体で個に応じたきめ細かな指導が充実

# 普通教育を主とする学科の方向性

## 【検討委員会における主な意見】

- ・ 問題解決能力を育てるため、他県で実施している探究科や探究コースのような、特徴ある普通科を設置してほしい。
- ・ 進学に特化した普通科、地域探究を行う普通科など、地域や中学生等のニーズに対応した特色ある普通科への改編も必要である。
- ・ 学際教育科、地域連携科などの設置を考えてほしい。
- ・ デジタルや地域課題の解決、探究的な学びに重点的に取り組むことができる高校が必要。

## [方向性]

大学や地域、関係機関との連携等により特色ある教育活動を推進する新たな学科を設置し、普通教育を主とする学科において県全体の特色化・魅力化を進める。

*New*

デジタル分野に関する学科

*New*

地域社会に関する学科

*New*

学際領域に関する学科

# 新学科の設置

学科名 (仮称)	学科の特徴	教育活動の例
データサイエンス科	<p>Society5.0の実現や企業・地域のDX推進に必要とされるスキルや社会の状況等に着目し、大学や企業等と連携しながら、専門性の高い外部人材による講義や最新技術を用いた体験的な学び等を積極的に展開し、AI・IoT・DXの進展に対応できる資質・能力の育成につながる学びの充実に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計やデータ分析について学んだ上で、本県の観光客動向と人流動態・地理情報・交通情報等の地域生活に関するビッグデータを重ねて分析し、オーバーツーリズムを生じさせにくい効果的な観光振興策をデータに基づき検討する。</li> <li>地域交通マップ・人口分布・指定避難所一覧等のデータを基に地域の立体ハザードマップを作成し、災害発生時における住民の移動経路や避難所要時間をコンピュータ上で推計・シミュレーションすることで、避難時に想定される副次的災害リスクを可視化し、地域の防災計画を検証する。</li> </ul>
未来デザイン科	<p>地域社会の課題や魅力に着目し、地域社会が有する交流や活動のネットワークを最大限に活用しながら、事例研究やフィールドワーク等を行うとともに、地域行事への参加等、地元自治体と連携した体験的な活動に取り組むなど、地域社会に関する理解の深化と学びの充実に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特産物を使用した商品を地元企業と共同で開発するとともに、地元自治体の協力を得ながら、開発した商品を用いて地域をPRする活動を体験する。</li> <li>地元自治体と同様の課題を抱える県外の自治体を訪問し、課題や改善策について実地調査を行いながら、地域振興について多角的に考察する。</li> </ul>
探 究 科	<p>SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる、複合的かつ分野横断的で、ボーダレスな課題等に着目し、大学等と連携しながら、自ら設定した課題に関する学びを深め、その成果を表現・共有するほか、各教科・科目における学びと関連させ、学校全体として探究的な学びの充実に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動で取り組んでいるスポーツにおける女性の参加に関する課題の分析等を通じて、社会におけるジェンダー平等について考察する。</li> <li>大学の研究室の助言を受けながら、積雪による被害の低減や豪雪耐性の高い市街地の在り方について実証的に研究する。</li> </ul>

# 新学科の設置（他県の類似の学科の教育課程表）【データサイエンス科】

## ○ 鹿児島県立種子島中央高校

入学年度		令和7年度					備 考
科 目	学年 科目 単位	1年	2年	3年	合計		
国 語	現 代 の 国 語	◎ 2	2		2	4	
	言 語 文 化	◎ 2	2	2		4	
	文 学 国 語		4	2	2	4	
地 理 歴 史	地 理 総 合	◎ 2		2		2	丸数字は選択履修。
	地 理 探 究		3		③	0, 3	
	歴 史 総 合	◎ 2		2		2	
	日 本 史 探 究		3		③	0, 3	
公 民	公 民 共	◎ 2	2			2	
数 学	数 学 I	◎ 3	3			3	
	数 学 A		2	2		2	
	数 学 B		2	1	1	2	
	デ ー タ 数 学	学校 4			4	4	
理 科	科 学 と 人 間 生 活	◎ 2	2			2	丸数字は選択履修。
	物 理 基 礎	○ 2		②	①	0, 3	
	化 学 基 礎	○ 2		②	①	0, 3	
	生 物 基 礎	○ 2		②	①	0, 3	
体 育	体 育	◎ 7~8	3	2	2	7	
	保 健	◎ 2	1	1		2	
芸 術	音 楽 I	○ 2	②			0, 2	丸数字は選択履修。2, 3年次は1年次に選択した科目を履修する。
	音 楽 II		2	②		0, 2	
	コ・クリエイティブ音楽	学校 2			②	0, 2	
	美 術 I	○ 2	②			0, 2	
	美 術 II		2	②		0, 2	
	コ・クリエイティブ美術	学校 2			②	0, 2	
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	◎ 3	3			3	
	英 語 コミュニケーション II		4	4		4	
	英 語 コミュニケーション III		4		5	5	
	論 理 ・ 表 現 I		2	2		2	
家 庭	家 庭 総 合	◎ 4	2	2		4	
情 報	情 報 I	◎ 2	2			2	
	情 報 II		2	2	1	3	
※	(※)住生活デザイン	2~6			2	2	
DX	DX	学校 7	2	2	3	7	
特 活	ひこばえ学	◎ 3~6	1	1	1	3	
合 計			29	29	29	87	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			30	30	30	90	

※主として専門学科において開設される各教科・科目  
科目名の次の記号 ◎:必修科目 ○:選択必修科目

# 新学科の設置（他県の類似の学科の教育課程表） 【未来デザイン科】

## ○ 長崎県立松浦高校

1年	国語	歴史	地理	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭	松浦学	まつナビ	松高タイム	LHR	総合的な探究の時間
2年	国語	地歴	公民	数学	化学	生物	保健体育	英語	情報					
3年	国語	地歴	公民	数学	生物	体育	芸・体	英語						

# 新学科の設置（他県の類似の学科の教育課程表） 【探究科】

## ○ 西宮市立西宮東高校

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	※26
1年	現代の国語	言語文化	歴史総合	数学Ⅰ		数学Ⅱ	数学A	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	科学探究基礎	LHR	科学探訪Ⅰ							
2年	論理国語	古典探究	地理総合	公共	数学Ⅱ		数学Ⅲ	数学B	数学C	物理生物	化学	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	科学探究Ⅰ	LHR	科学探訪Ⅱ							
3年	論理国語	古典探究	地理探究	数学Ⅲ		科探発展数学		物理生物	化学	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	科学探究Ⅱ	LHR												

※ここに示した教育課程は事情により変更する可能性があります。  
 ※「科学探訪」は学校設定教科「探訪」として、特定の期間で集中実施します。

■ 総合的な探究の時間について

1年	2年	3年
科学探究基礎	科学探究Ⅰ	科学探究Ⅱ

# 職業教育を主とする専門学科の方向性

## 【検討委員会における主な意見】

- ・生徒が「行きたい」と思う各校の魅力づくりを強化することにより、ブルーカラーなどの育成が図られる。
- ・工業分野において、地域にとっては現場で活躍する人財が一番重要であるため、地域で活躍する人財の育成について考えてほしい。
- ・県や地区の特徴を考え、将来を見据えた学科の設置が必要。
- ・人財育成の観点から職業教育を主とする専門学科は必要であり、入学者数を確保する施策が必要。

## 【方向性】

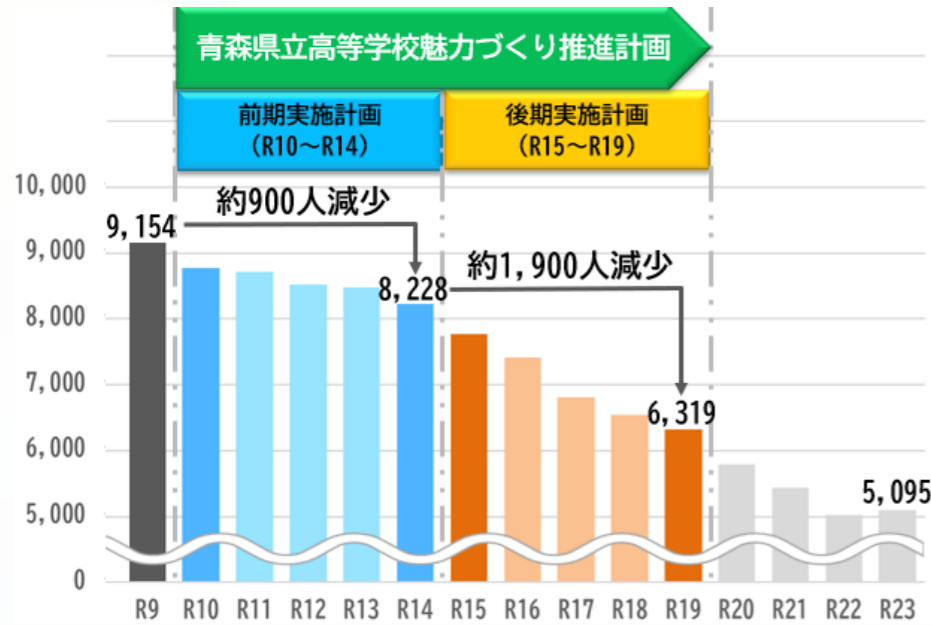
- アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の産業イノベーション人財の育成に向けた取組
- 産官学との持続的な連携体制の構築・強化
  - ・市町村や産業界と一体となって在り方を検討
  - ・地域の課題解決に向けた探究学習
  - ・大学や企業等と連携した高度かつ実践的な学び
- 最新技術に対応した高度な施設・設備へのバージョンアップ
- 専門高校の理解促進に向けた情報発信の強化

# 学校配置の方向性

## < 中学校卒業予定者数の推移 >

前期：比較的緩やかな減少

後期：急速な減少



■ 次の事項を踏まえ、中・長期的な視点で将来像からの逆算により検討する。

- ・ 中学校卒業予定者数がほぼ半減することは不可避
- ・ また、変化する産業構造等を踏まえ、新しい時代を主体的に切り拓く人財の育成が必要
- ・ 一方で、中学生の進路選択肢の確保や通学環境への配慮は必要

## [方向性]

後期実施計画の状況を見据え、6地区ごとに、中学生のニーズ等を考慮しながら、様々な役割を担う学校を配置



## ② 上北地区の学校配置の方向性

上北地区における中学校卒業生数・募集学級数の推移（見込み）※括弧内は少人数学級編制を導入した場合  
（単位：人・学級）

	第2期	前期実施計画					後期実施計画
	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R19
中学校卒業生数	1,442	1,499	1,414	1,373	1,395	1,343	1,086
前年比較	—	57	△85	△41	22	△52	—
期間内増減	—	△99					△257
募集学級数	32	27					22(23)
期間内増減	△2	△5					△5(△4)

【1校当たりの募集学級数（地域校及び地域共育校を除く）】

第2期実施計画（R9）	前期実施計画（R14）	後期実施計画（R19）
3. 9学級（8校）	3. 6学級（7校）	3. 0学級（7校）

⇒ 学級減のみで対応した場合、各校の小規模化が加速することから、充実した教育環境を整備するため、10年間において統合等を検討する必要がある。



【学校配置の基本方針】

前期実施計画においては、中学校卒業予定者数や「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス考慮し、学級減で対応

# 上北地区の学校配置の方向性

## 【県の各産業における主な取組等】

- ・ 農作物のブランド化、グローバル展開
- ・ 次世代エネルギー産業の振興
- ・ データセンターの設置
- ・ 農エベストミックス新産業の創出
- ・ 魅力ある商店街づくりの推進
- ・ 「観光力」強化による交流人口の拡大 等

## 【上北地区の取組の方針】（再掲）

- ・ 農林水産業を持続的に発展
- ・ スマート農業の推進
- ・ 付加価値の高い特産品の開発
- ・ 販路開拓
- ・ 地域コミュニティの活性化
- ・ デジタル技術を活用したマーケティングの充実
- ・ 冬季観光の拡充
- ・ 保健・医療・福祉等の連携体制の充実
- ・ 地域内の多様な人財を発掘・育成
- ・ 移住・定住・還流の推進

【地域の声】  
参考資料 | 参照

前ページの学校配置  
の基本方針

## 【方向性】

- ・ 職業教育に関する学びの選択肢を確保
- ・ 十和田市及び三沢市において幅広い進路志望に対応するため、普通科を有する高校を配置
- ・ 総合学科を有する高校を配置
- ・ 高い目標を持つ生徒同士の学び合いの機会を提供する中高一貫教育校を配置
- ・ 未来デザイン科を設置



③ 定時制課程・通信制課程の学校配置の方向性

# 定時制課程・通信制課程の学校配置の方向性

## 定時制課程・通信制課程の学校配置

- 定時制課程及び通信制課程については、生徒のニーズの多様化へ対応し、広く学習機会を提供するため、**現在の配置を維持**
- なお、**通信制課程で行われるスクーリングについては、遠方から通学している生徒を対象に、自宅により近い協力校(県立高校)で受けられる体制の整備など通学の負担軽減に向けた取組を検討**